

令和7年度第1回いわき地区スタッフ研修会研修終了後アンケート報告書

作成日：令和7年7月1日

作成者：草野 学

開催日：令和7年6月19日（木）10:00～16:00

開催場所：かしま病院 コミュニティホール

テーマ：「グループホームにおける認知症ケア」～中核症状とBPSDの境界線から考える～

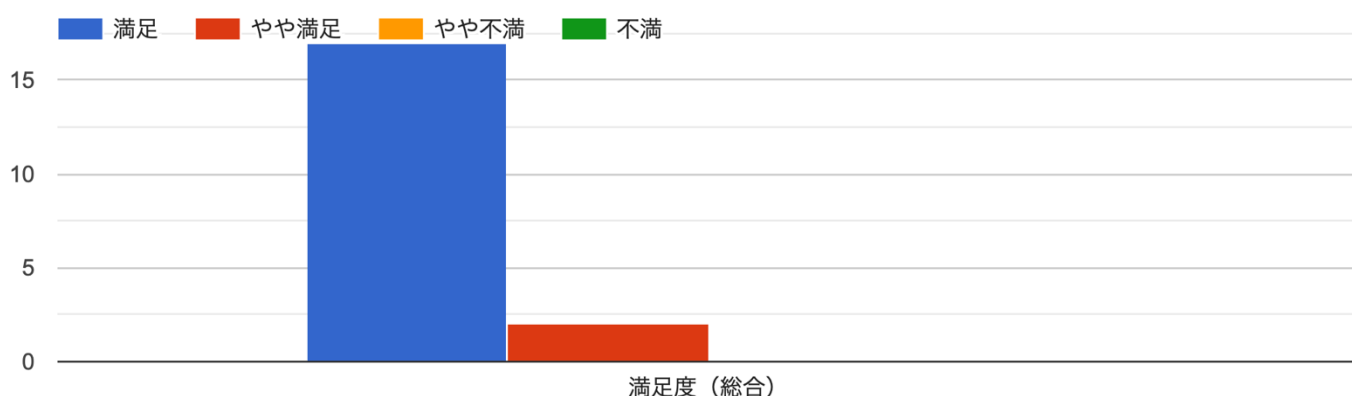
講師：特定非営利活動法人 豊心会 副理事長・総括本部長 橋本 好博 氏

参加申込者：28名（うち運営5名）

参加者：27名（うち運営5名）

アンケート回答：19件（回収率70.3%）

1-1. 今回の研修内容はいかがでしたか？



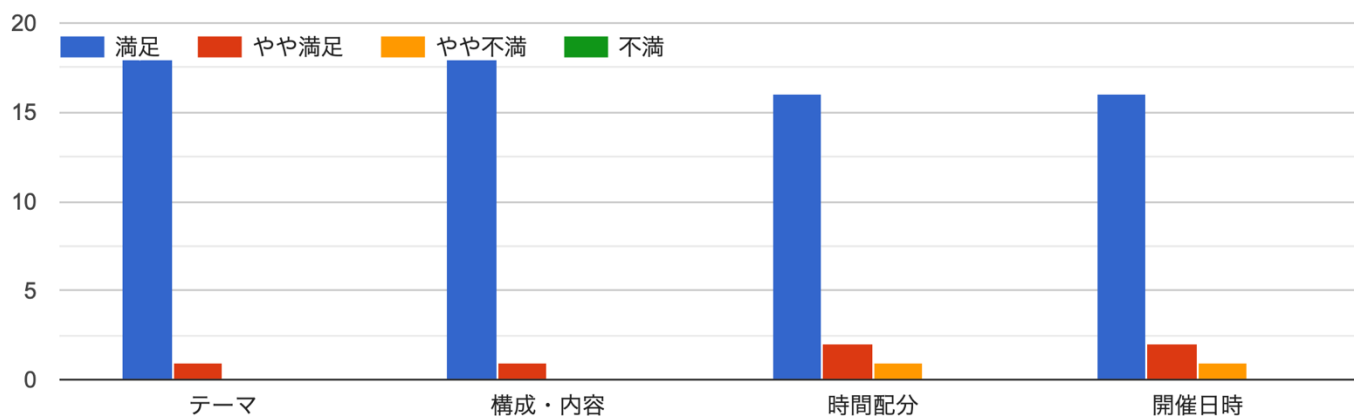
2. 今回の研修について、ご意見・ご感想をお願い致します。

- 他の施設の方の話も聞くことができ、とても勉強になりました。
- 中核症状がBPSDを引き起こす原因であることを認識し、現場での実践に活かしていきたい。
- 研修で学んだ知識を実践で活かし、適切な支援ができるよう努めていきたい。
- 先生の話がとてもわかりやすく、気付かされる事が多かった。
- 出来ない事を介助するだけでなく出来ない事を出来る様にする為の介助という言葉に役立てたいと思います
- 講義やグループディスカッションを通して、認知症を患う入居者の抱える障害や出現する症状を介護者は理解し、よく観察してその方のできないところをどのようにサポートするか、できるところをどれだけ活用できるかを日頃から考慮することが良いケアに繋がると感じた。
- 大変勉強になり、色々な事を学べたと思います
- 大変勉強になりました。
- 色々話があったがいろいろな方向に行き過ぎる
- 説明が分かりやすく楽しく受講できた。
- とても分かりやすく楽しい研修でした。
- 午前、午後とありましたが、時間もあっという間で、グループワークの中でも、他の施設のスタッフの

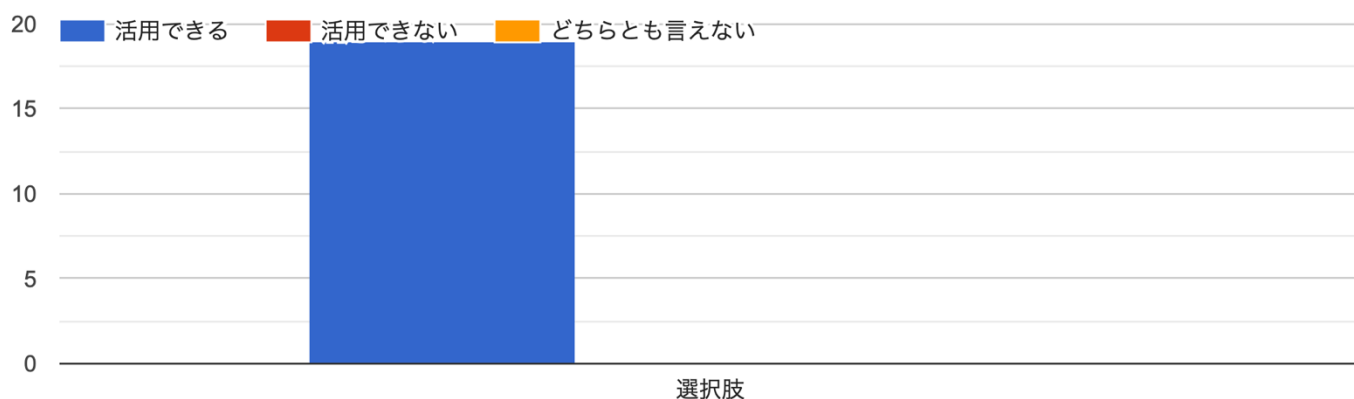
考え方も学べとても良かったです。

- 研修の進め方もスムーズで飽きずに参加できた。
- 認知症状に対する理解が深まりました。橋本先生の経験から現場でのあるあるがわかりやすく理解しやすかった。
- 認知症の対応の基本が再認識できました。認知症利用者に対する対応は理解していたつもりですが、その場しのぎで配慮が大事だと感じました。
- どうしても対応に慣れてしまって、配慮の大切さをあらためて考えさせられました。
- BPSD と中核症状の境界線の理由・食べてしまうからなくしてしまうではなく、ご本人様の感情を大切にする。アフターフォローを考え、豊かな生活を送っていただけるように職員一人一人が考えながら、利用者様を理解する姿勢が本当に大切なことであると理解出来ました。
- 短期での対応を考えるのではなく、長期的な対応も考える必要がある事を学びました。
- 講義中は、他グループホームとのグループワークもあり、いろいろな意見を聞きながら研修できたので、とても良かった。
- 認知症の基本的な知識のおさらいから対応と配慮のニュアンスの違い、アフターケアまで意識することを改めて学びました。終始楽しい研修でした。

2. 以下について、満足度を教えてください。



2-1. 今回の研修会は、今後の業務に活用することができますか？



2-2. その理由を教えてください。

- 同じような事案があり、今回の研修で聞いたいろいろな意見をもとに活用できると思いました。
- 学んだことを早急実践することで、介護者の負担軽減にも繋がると思う。
- 慣れてしまっている関わりや業務も、気配りや配慮を大切に見直していきたい。
- 行動に対する対応だけではなくその前に配慮するという言葉が勉強になりました。
- 認知症を患い様々な障害を伴っている入居者は、健常者である自分自身にはとうてい理解出来ないほどの生活のしづらさがあるということを理解し、今後は入居者の生活のしやすさ、理想的な生活というのを念頭にケアしていきたいと感じた。
- まだ1年で経験も浅いですが、人としてもっと寄り添える事が出来れば良いと思いました。
- 皆で色々話し合い大変勉強になりました。
- 基本的なテーマに沿っているので
- 認知症に方への対応と一人一人の個性を引き出すこと学べた。

- どうしてもスタッフ目線だったり、入居様様がどのようにしたいのか、どう思っているのか、その人その人で思いは違うという事を忘れがちな時があります。
- スタッフ本意ではなく、入居様の背景を考え、その方に合った個別ケアが大事だと再認識しました。
- スタッフのイライラなどでも変わってくるので、もう少し柔軟に考え楽しく日々のケアが出来るようにしていきたいと思いました。
- 日頃、特に意識的に入居者と関わっていないこともあるので、研修で学んだことを他職員とも共有し活かしていきたいと思う。
- 事例検討ではアセスメントの大事さを再認識しました。
- 事後対応ではなく、利用者を感じて事前の関りに活かせる感じがします。
- スタッフ同士で認知症ケアの基本と考え方を共有し、より深く考える事が出来ると思うから。
- 今回の見当識障害・視空間認知障害など、アルツハイマー・レビー小体の違いが判らず、利用者様とのコミュニケーションや接遇に不安がありました。
- 今講習で学んだ事を日々の接遇に活かしていきたいと思います。
- 認知症の中核症状、BPSD 等の講義を受けたことで、忘れていたことを思い出すことができ、今後のケアに活用できる。また、事例の内容がグループホームで困っていることと同じだったので活用できると思いました。
- 今回、初めて他の事業所のスタッフの皆様と一緒に研修を受けさせていただき、他の事業所ではこのような取り組みや生活をされているのだと知る事ができ、又、グループで話し合う事によってたくさんの意見を聞く事が出来てとても貴重な経験となりました。
- 講師の先生も、事例や冗談を交えながら楽しくお話くださり、あっという間に時間が過ぎました。
- どうしても問題行動ばかりに目が行きがちだが、その背景、そもそもの脳の症状、アプローチの幅を広げる意識を高めようと再度感じた。チームで共有、実践したい。

3. その他、研修会へのご希望（テーマ・講師など）がありましたら、ご意見をお願い致します。

- 認知症だけでなく、高齢者が服用する薬についての研修
- リスクマネジメントについて
- BTSD の現場の再現フィルム（良い例と悪い例）
- 同じような研修があったらまた参加したい
- 緊急時の対応
- 緊急時の対応、BCP 研修について
- コミュニケーションがあまりとれない利用者様に対して、どのような関わり方が良いのか、
- より詳細な対応を勉強させていただけたら幸いです。
- 特にございません。